

13 番 石 田

13番、石田照子でございます。

「山北藤野線」開通へ働きかけをということで、御質問させていただきます。中川・三保地区の幹線道路は、かつては山中湖、道志村、橋本方面へと車や人が往来できる道路であり、交流も盛んに行われていた。しかし、道路はあるものの、今ではどの道路も通行止めとなっており、三保方面では、災害発生時に陸の孤島となる懸念がある。

近年では、50年に一度、100年に一度発生すると言われる災害が毎年日本各地で繰り返し発生しており、町民の安全・安心を担保するには北へ抜ける道路の開通は悲願である。当町の総合計画にもしっかり位置づけされており、山北藤野線への認識はあるものと理解し、以下3点について質問する。

1点目、令和5年(仮称)山北スマートインターチェンジ開通予定に伴い、国道246号線の拡幅も必要と思うが、北へ抜ける幹線道路の開通についても動きを止めてはいけないと思うが、どうか。

2点目、山北藤野線は、相模原市の道路計画にも位置づけされている。当町にとっては、災害時の代替道路や観光に、相模原市にとっては災害時のみならず、渋滞時の迂回路や観光としても機能する利用価値の高い道路である。双方で共通認識を持ち、開通への動きを加速させるべきと思うがどうか。

3点目、「やまなみ五湖水源地域交流の里づくり計画」が令和2年に終了し、新たな取組として、県は連携・協働の支援体制を整備し、エリアごとの魅力を生かした事業の支援に取り組むとしている。やまなみ五湖の交流や連携、地域の活性化には道路整備など、ハード事業も必要と考えるが、県へ要望したらどうか。

以上でございます。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、石田照子議員から「山北藤野線の開通へ働きかけを」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「令和5年(仮称)山北スマートインターチェンジ開通予定に伴い、国道246号線の拡幅を必要と思うが、北へ抜ける幹線

道路の開通についても動きを止めてはいけないと思うが」についてであります。現在、建設中の（仮称）山北スマートインターチェンジが完成することで、本町へのアクセス性が向上することから、観光客の増加は企業活動の活性化、さらには広域的な交通拠点が形成されることで、県西地域のみならず、県域を超えた地域との地域活性化にもつながる効果が期待されます。

こうした（仮称）山北スマートインターチェンジ整備効果をさらに引き出すために、本町の東西方向を結ぶ国道246号や南北方向を結ぶ主要地方道76号山北藤野などの道路環境の整備促進に取り組むことが必要だと考えております。

こうした中、町では令和2年度から県西土木事務所や県関係課職員との意見交換の場を設けており、昨年度は3回の意見交換会を開催するとともに、丹沢湖から東側、西側及び北側へと抜ける道路の状況を確認するため、県と合同で現地調査を行ったところであります。私も北に抜ける道路をはじめ、町域を超える道路の必要性については十分認識しておりますので、引き続き県に御協力をいただきながら、本町における広域的な道路ネットワークの効果や必要性などを整理し、（仮称）山北スマートインターチェンジを中心とした広域的な道路について、調査、研究を進めてまいりたいと考えております。そして、意見交換会における議論をまとめ上げ、関係自治体との調整や要望活動につなげていきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「山北藤野線は相模原市の道路計画にも位置づけられている。当町にとっては、災害時の代替道路や観光に、相模原市にとっては災害時のみならず、渋滞時の迂回路や観光としても機能する利用価値の高い道路である。双方で共通認識を持ち、開通への動きを加速させるべきと思うが、どうか」についてであります。主要地方道76号山北藤野は、本町から相模原市緑区までを結ぶ県道ですが、本町北部から相模原市までの区間は未整備となっており、アクセスできない状況となっております。

そのため、1点目の御質問でも回答しましたが、町では、県との意見交換会を重ねており、現在は町として防災面や産業、観光面、さらには地域交通の円滑化など、様々な目的におきまして、効果や必要性を整理しているところでございます。このような中、先日、相模原市から山北町の取組状況につ

いて、情報提供をしてほしいとの連絡がありましたので、相模原市を訪問し、これまでの経緯や意見交換会での取組状況を説明したところでございます。相模原市からは山北町の意見交換会の検討内容について、情報共有を図りたいとのお話をいただけてきましたので、今後は相模原市とも情報共有をしながら検討を進めてまいります。

次に、3点目の御質問の「やまなみ五湖の交流や連携地域の活性化には道路整備などハード事業も必要と考えるが、県へ要望したらどうか」についてでございますが、県では、豊かな水を育む水源地域の活性化や水源環境の理解促進を目指して、相模湖、津久井湖、奥相模湖、丹沢湖、宮ヶ瀬湖の五つのダム湖エリアを対象に、20年以上にわたり、水源地域と都市地域との交流を柱とした施策を展開しております。令和3年3月には、前回計画である「やまなみ五湖水源地域交流の里づくり計画」の取組を検証し、新たに「かながわ水源地域活性化計画」を策定し、その中では水源地域を山北、津久井、宮ヶ瀬の三つのエリアに分け、エリアごとの新たな魅力を発掘し、各エリアの魅力を高めるため、事業化を行うことで水源地域への来訪者の増加を図ることとしております。

こうした水源地域の各エリアとの交流や連携を強化する一つの手法として、本町から北へ抜ける道路の整備促進も有効と考えられますので、県との意見交換会においても、そのことを念頭に置き、検討を進めていきたいと考えております。そして、将来的に広域的な道路における議論をまとめ上げた段階で、県へ要望してまいります。

議 長 13番、石田照子議員。

13 番 石 田 いただいた回答を見ますと、全体的に非常に前向きでとても素晴らしい回答になっておりますので、本来でしたらここで終わりにしたいところではございますけれども、せっかく再質問を用意いたしましたので、重複する部分があるかと思っておりますけれども、質問をさせていただきます。14年ほど前からユースンロッジが営業休止をいたしまして、8年後には丹沢湖ビジターセンターが廃止となり、3年後には大野山乳牛育成牧場が営業を終了し、それに付随したまきば館が民間に貸し出されております。

また、同じ年には三保ダムの建設によって、移転を余儀なくされた方々の

憩いの場として、地域の雇用の場として、あるいは水道事業団の研究の場所として、建設された丹沢荘が民間に売却をされました。これらの施設は、地域振興、地域の雇用の創出、観光振興として造られた県営の施設ですが、軒並みここで廃止になりまして、その当時、交わされた約束事もほごになり、ないものとされております。

また、本年3月に改訂されたばかりの「かながわ都市マスタープラン」を見ても、県西の中でも、特に山北町、県の一番外れだからでしょうか。全く計画にも載っておらず、非常に残念な状況ではございますけれども、これは西の外れの端っこのほうにあるから、県の視界に入っていないのか、あるいは存在を忘れられてしまっているのかと、非常に懸念をするところではございますけれども、この県の対応について、町長はどのように感じられましたでしょうか。

議  
町

長 町長。

長 おっしゃるように、様々な県有施設が県の方針によって、閉鎖あるいは、そういったようなことになってきました。また、その施設について、払下げ等で町に持っていただけないかというようなことで、受けたものも結構ございます。そういったことを含めながら、やはり自分たちの手でまちづくりをしていかなければ、なかなか国頼み、県頼みだけでは難しいなということを感じております。

ただ、当然、町だけではできないということも多々ありますので、そういった中で、今おっしゃっているような中で、特に三保地域においては、孤立化するということは、災害があったときにはもう100%間違いございませんので、そういった意味では何とか防災面からも道路の問題、そして、またそれができるまでの間はドローンか何かで補完していかなければいけないだろうというようなことで考えております。そういったようなことで、どっちが悪いとか、こうとかということではなくて、やはり現実にはいろいろな施設が撤退して、そして、町にそういったような宿題が課されていると。そういったことをどういうふうに解決していくかということが、我々に課されたテーマだというふうに思っていますので、そういった中で一番最善の方法で取っていきたいと。その中でも、やはり生命、財産に関することは最優先でござ

いますので、道路問題というのは、北だけではなくて、東でも、西でも早く開通できる場所があれば、まずはそういうところをとということですけど。今現在、県のほうとも3回ほど協議をしておりますので、ぜひとも、私としては何らかの形で三つのうちのどれかをまずは開通させたいというふうに考えております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 町長から三つのうちのどれかを開通させたいという力強いお言葉がございましたけれども、県のそのような行動が何となく消極的であるのならば、スマートインターチェンジの開通は大きなチャンスだと思うのですけれども。回答の中でも、これを機会にというふうな御回答をいただいておりますけれども。町長の決意をチャンスを捉えるという決意をお聞かせいただきたいと思っております。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、なかなか町単独で、あるいは県のほうに、ただお願いだけではなかなかできませんけども、民間企業も含めて、スマートインターチェンジを開業する、令和5年末にするということとして、非常に関心が高いと。やはり山北町というのは、ほかから見ると、一つは、我々にとってはデメリットの急峻だということ、あるいは水の問題、あるいはユーシンブルーにありますように、崩落とか、そういったような危険はあるんですけど、逆に観光客から見ると、非常に魅力的なところ、温泉もあるし、水はきれいだし、山もしっかりあるというふうなことで、非常に引き合いが、今非常に多く来ております。そういった中で、地域の皆さんともし協力できるような事業者、そういったようなことがあれば、ぜひとも、それをきっかけにスマートインターチェンジが開通することを一つの契機として、町をさらに皆さんに知っていただいて、また来ていただく、そういうようなチャンスになればいいなど。また、来ていただいても、実際に幾つかの事例の中で、雨が降ると、非常に危険であるとか、あるいは帰れないとか、そういったこともあることが想定されますので、やはり先ほども言ったように、道路の問題というのは、そういった大変なインフラの問題は非常にについて回りますので、その辺は、ぜひ県のほうともしっかりと伝えて、何とかやっていきたいとい

うふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 ちよっと回答が長くて決意のほどがしっかりと伝わらなかったんですけども、これをしっかりチャンスと捉えて、町として、北へ抜ける道路を整備していくことに力を入れるということで、御理解してよろしいでしょうか。

じゃあ、しっかりとした決意をお聞かせいただいたところで、回答書の中で、「現在町として、防災面や産業観光面、さらには地域交通の円滑化など、様々な目的におきまして、効果や必要性を整理しているところでございます」とございますけれども、様々な目的や効果の必要性を整理というのは、どのようなことを指しているのか、もしお分かりいただければ、具体的にお示しいただけますか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 県との意見交換会の関係なんですけれども、これまでに会議は何回か重ねまして、先ほど町長からお話がありましたとおり、東へ抜ける道路、北へ抜ける道路、南へ抜ける道路の現状の道路の状況について、視察を行いました。そして、先ほど町長からも話がありましたけれども、3方向のいずれかを何とか開通したいというような思いが町長のほうにもございますので、これまで見てきた3方向の道路について、山北町として、どれを優先的に進めたらいいのかというのを産業面ですとか、防災面、あるいは広域交通の観点、それらをしっかり整理して、3方向のうち優先的に進めていく道路を決めていくという中で、それをしっかり決めないと、なかなか道路整備構想とはいえず、なかなか道路計画進みませんので。この手法につきましては、県西土木さんのほうからアドバイスをいただきまして、国土交通省の構想段階における道路計画策定プロセスガイドラインというものが国交省のほうで出しておりますので、それに沿った形で現在県と連携を取りながら進めているところでございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 感触としては北へ抜ける道3方向ぐらいあるかと思うのですけれども、可能性が高いのはどの辺りだと感じておられますでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長

3方向のうち可能性が高い道路ということでよろしいですか。

いろいろな考え方があるかと思いますが、これまでも議会の一般質問の中で、北へ抜ける道路が必要じゃないかというような御意見ですとか、あるいは東へ抜ける山中湖のほうと連携を取るための道路が必要じゃないですとか、いろいろな意見が出ているところでございまして。

また、東へ抜ける道路については、松田の宿のほうに抜けるようになりますので、果たして、松田に抜けるのが広域的な交通ネットワークの点からどうなのかというような意見ですとか、様々な議論があると思います。それらを、今、全部町の意見交換会の中で整理をしているところでございますけれども、これまでの議会の議員さんからの御意見ですとか、あるいは地域の方のお話ですとか、そういうものを聞きますと、おのずと町として、どこを優先的に進めていくのかというようなものが見えてくるかとは思いますが、現時点では、どちらを優先的に進めていくということをこの場でちょっと申し上げることは難しいと思いますけれども、これまでの流れからいきますと、おのずと町として進めていくべきルートはどこなのかというものが事務局といたしましても、認識しながら意見交換会のほうは進めているような状況でございます。

議長

石田照子議員。

13番石田

じゃあ、まだ検討段階なので、具体的には話せないということは分かります。ただ、相模原市さんのほうも割と乗り気なんではないですか。情報交換をしたいと、情報の共有を図りたいというお話で、相模原市さんのほうからもお話が来ているようでございますので、山北藤野線について、話を移らせていただきますけれども、山北藤野線は当初の総合計画にもしっかりと位置づけてありまして、2023年までに整備計画が載っておりますけれども、あと今後2年間はどのような整備をされるのでしょうか。

議長

企画政策課長。

企画政策課長

総合計画に載っている山北藤野線の整備という形よろしいでしょうか。そうしますと、それにつきましては、既存の山北藤野線の拡幅ですとか、改良ですとか、そういった部分になりますので。今回、御質問の北へ抜ける相模原に抜ける道路の関係ではございませんので、そういう形で御理解いただ

ければと思います。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 拡幅工事で終わるんだというのは、大体薄々感じてはおりましたけれども、これがあと2年後、23年で終わるということは、次の総合計画にも、今度は延伸という形で載る可能性もあるんですか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 繰り返しになりますけれども、3方向へ抜ける道路のうちに、どれを町として、優先的に進めていくのかということが、仮に北へ抜ける道路を優先的に進めていくという話になれば、第6次の総合計画になりますけれども、そちらのほうには北へ抜ける山北藤野線の例えば延伸について、整備促進を図るですとか、そういう文言が載る可能性はあると思います。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 山北藤野線は主要地方道の位置づけになっております。ネーミングのとおり、主要地方道というのは主要な道路ということではないかと思うんですけれども、そうしますと、一般県道よりも優先されて整備される道路なのかなと、私は認識しているんですけれども、いかがでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 主要地方道という名称がついている県道でありますけれども、そういった県道であっても、実際には整備が全部進んでいない部分というのがございますので、特にそういう名称がついているから未整備の部分について、優先的に進めていくどうか、そういう話はちょっと私も県の意見交換会の中でも伺っておりませんので、その辺りは現状はそういう状況でございますので、その辺りも進めて考えながらちょっと検討を進めていきたいというふうに考えています。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 それでは、ちょっと話を変えてみますけれども、主要地方道というのは、高速道路とか、一般国道と一体となって、広域交通を分担する幹線道路で、整備や管理費の半分50%などが国の補助ができる道路ということになっております。しかし、数ある主要地方道の中で、ほかは全部100%舗装率なんですけれども、2本だけ100%に満たない、特に76号線は74%舗装率が74%な



んです。一般県道よりも、主要地方道のほうが優先的に整備される傾向にあるのに、主要地方道に位置づけされた76号線が整備もされずに、何十年も通行どめになっているというのは大きな理由は何でしょうか。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 大きな理由といたしましては、76号につきましては、御案内のように犬越路峠、あそこを通過していくわけでございますけれども、そこから先につきましても、相模原市側につきましても、現在76号とはいえ、林道のような道路になっているような状況でございます。実際、相模原市さんは政令市でございますけれども、76号の部分を管理しているのは、現在、神奈川県が林道扱いという形で管理しているような状況でございます。したがって、あそこの整備につきましては、地形的に非常に高低差もございますので、困難であるというようなことが一番大きな理由ではないかというふうに考えております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 地図上は76号線、途中波線にはなっておりますけれども、しっかり相模原市のほうに抜けて示されております。そして、車は通行できませんけれども、徒歩や二輪車では通行できるような状況で、それが道志につながる国道413号線につながって、さらにそれが北上すると、中央自動車道にもつながっているという。地図上は示されております。これが、急峻だとか、あるいは地盤がもろいというのは分かりますけれども、それが計画された当初、あるいは、犬越路も整備しているわけですから、整備されているときに、もう既にそのような状況が分かっているはずなんです。それなのに、あそこまで犬越路林道を整備しておいて、そのまま手つかず、通行どめになってしまっているというのは、当町の押しが弱いのか、あるいは過去において、アクションを起こさないでしまったのか、何か原因があるのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 犬越路林道のことについてでございますけれども、県道76号で未整備の部分につきましては、犬越路林道よりも少し先に直線的に北へ抜ける道路が未整備というような形になってございまして、それに変わる代替ルートと

言っているのかどうか分かりませんが、その変わるルートとして、林道として、犬越路林道を造り、相模原市側につきましては、水ノ木林道という林道があって、そこが唯一つながっている、相模原市とつながっている道路でございますけれども。現在は残念ながら台風の影響で通行どめになっているような状況でございます。

そして、先ほど議員さんのほうからのお話のありました未整備の県道の部分について、整備が進まないまま、町の押しが足りないんじゃないのかというようなお話でございますけれども。北へ抜ける道路だけではなくて、山中湖に抜ける県道、山北山中湖線ですとか、そちらも未整備ということで、そちらにつきましては、以前、町と県とでいろいろ協議体をつくってやったんですけど、なかなかそちらもうまく、要は環境面ですとか、様々な問題でなかなか整備が進まなかったような状況でございます。

そして、北へ抜ける道路につきましては、議員さんのおっしゃるように、私が記憶する限りでは、これまで県に強く要望したとか、そういう記録は残ってございませんので、ここでいいチャンスではございますので、県との意見交換会で県の方からいろいろな意見をもらいながら、今後、意見交換会でも議論をまとめ上げて、県のほうにしっかり要望をしていきたいと。要望に当たりましては、関係する自治体さんですとか、そういうところとも連携を取りながらしていきたいというふうに考えております。

議長 石田照子議員。

13番 石田 県や関係自治体とも連携を取りながら、しっかり要望していくという前向きな回答をいただきましたけれども、神奈川県の県道整備に対する考え方の一つに震災に対する安全性の向上というのがあります。そして、当町は大震法に基づいて、地震対策強化地域の8市11町の中に入っております。中川、三保地区は大きな災害が一たび発生すると、寸断されてしまう地域ですから、ぜひ地震対策強化地域に指定されているというようなことを前面に押し出して、ぜひ76号線の整備を震災時の安全性の向上ということで、県に訴えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長 町長。

町長 先に県のほうで、私が町長にならせていただいてから、地域要望の中で、

藤野線のところについては、特に箒沢までの中の4か所を拡幅してほしいという要望がありましたので、それを県土整備部長にお願いして、確約を行ったというような経緯がございます。その後、部長がもう4人代わっておりますけど。粛々とやらせていただいて、今1か所、2か所目かな、非常に、ちょっとこずっておりますけど、そういった中で少なくとも、私のほうで県土整備部長に真っ先をお願いしたのは、地域から出た4か所の拡幅を何とかしてほしいというようなことで、まずはお願いをして。ですから、それがまだ途中の段階であるということもありますし、また、こういうことで整理ができれば、さらに新しい県土整備部長なり、そういったことをお願いしなければいけないというふうに思っておりますので、そういった中では、一つずつ、私としては片づけているつもりではございますけど、やはりなかなか複数のことを一遍に頼むというのは、なかなか難しいところもありますので。地域が違えばいいんですけど、同じ藤野線になっておりますので、そういったことも御理解いただければというふうに。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 一つずつ片づけていくというような御回答もいただきましたけれども、それとともに、言い続けていくということも、非常に重要ではないかと思うんです。犬越路も含めて、県道76号線が、今、白石キャンプ場の付近で通行どめになって、犬越路もゲートのもっと手前の、坂に上る手前でもうコーンが置いてあって、通行どめになってしまっています。でも、二輪の方など、険しい道ということで、非常に好んで通るようなんですけども、県の道じゃなくて、険しい道と書いて、険道とやゆされているのは御存じでしょうか。

議 長 町長。

町 長 ちょっと言葉が足らなかったというふうに思いますけど、基本的には、山北町、非常に面積が多いので、三保方面だけではなくて、様々なところがございます。直近では、特に三菱ガスさんのまだ完成しておりませんが、あそこのところは何度も何度も要望してやっております。それから、今南原のほうの件についてもやっておりますし、そういった中で、もちろん河川のところもかなり多い土木がありますので、そういった意味では、やはり山北町相当広いわけですから、その中での優先順位というんですか、そういった

ような中で、土木さんのほうにもお願いしているというようなことがございます。当然、今のスマートインターチェンジが開通するについて、最優先で考えるべきことは先ほど申し上げましたように、三つの中のどれかの道を、やはり防災面から町としては強く要求していかなければいけないというふうに思いますので、研究というんですか、県のほうとよく打合せをして、そして、それらを決めたら、ぜひとも早く開通していくように、町としては最優先で考えていきたいというふうに考えております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 町長の決意の一端を聞くことができたように感じましたけれども、回答書のほうでも、相模原市とも情報共有しながら検討を進めていくという御回答をいただいておりますので、質問の2番目に対しては、もう一度、スマートインターチェンジの開通が大きなチャンスと捉えて、しっかりチャンスを物にするという町長の決意をいま一度お聞かせいただきたいと思います。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、開通したから全てができるというわけではございませんけど、開通を一つの契機として、そして町のあるべき姿を町民の皆様にお示しして、そして御理解をいただくように、私としても精いっぱい頑張っていくしますので、よろしくお願ひしたいと思います。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 それでは、3つ目の質問に移ります。やまなみ五湖なのですけれども、やまなみ五湖とは、皆さんも御存じかと思っておりますけれども、相模湖、宮ヶ瀬湖、津久井湖、丹沢湖の四つの人造湖と道志川上流の調整池である奥相模湖を加えた五つの湖です。五つの湖の連携、あるいは水源地域の活性化、水源環境の理解促進を目的にやまなみ五湖のネットワークができておりますけれども。5湖のうち、丹沢湖を除く4湖は相模原市さんも関係しているわけです。そこで、やまなみ五湖のネットワークを強化するには、山北町と相模原市との連携というのは、非常に重要であると思うんですけれども、現在どのような連携や交流が行われているのでしょうか。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 すみません。交流につきましては、県が中心になりまして、相模原の担当

課と山北町の農林課のほうで、課長と担当を含めまして、交流事業の情報交換を行っておるんですけども、ここを昨年度からコロナの関係で、なかなかその情報交換会自体も今年度は行われておりませんので、一応、県が中心になりまして、相模原市、山北町で情報交換を行っているというような状況でございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 農林課の課長が変わったばかりで、今まで担当していたのは、前課長ですのでね、過去の連携というのはお聞きしてもお分かりいただけないのかなと思いますけれども、何か引継ぎ等で、現在はコロナで交流はできませんけれども、過去において、どのような交流があったというようなことはお聞きしているでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 すみません。この協議会は私もメンバーに入っています。県が中心になっています。副知事、当時の黒川副知事、今はもうコロナの関係でちょっと変わってしまったんですけど、お一人関係した自治体の長、それから観光協会、商工会、それから、また私どもの副町長、副市長が、それから県の行政センターの関係、全て入って協議会で、過去にどういう活動をやってきたかとかいうと、それぞれの情報交換とか、例えば宮ヶ瀬湖を中心とした一つのエリア、丹沢湖を中心としたと。そうすると、丹沢湖の中だともみじ祭りの関係とか、そういう形で触れ合い、お互いにみんなでやろうよというような形でやってきたものでございますから、コロナ禍で、このコロナの関係で2年ほど、この協議会自体もちょっと開催されていないんですけども、いろんな面でソフト面、ハード面も含めてやまなみ五湖、いろんな面で発展していきたいと、情報交換をしていきたいというようなものでございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 一点確認なんですけれども、そうしますと、もみじ祭りなどに、その4湖の関係者が来られているとか、そういうような交流なんですか。

議 長 副町長。

副 町 長 来られている場合もあるし、一つの実績を報告するというのがございまして、山北町はもみじ祭り、花火大会とか、そういうものが一つの冊子になっ

ていまして、やまなみ五湖で連携してやっていますというような形で位置づけているものでございます。もちろん丹沢湖以外のところも、もちろんありますけど、ほかの自治体もありますけど、そういうものでございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 ちよっと視点を考えてみますけれども、先ほど農林課長が御回答いただきましたけれども、この水源地域交流の里づくり計画検討委員会、副町長も入られているというような、今御回答でしたけれども、この担当課というのが、各町で、相模原市さんではまちづくりセンター長が参加されています。清川村では産業観光課長、愛川町では環境経済部商工観光課長が参加されております。山北町からは、農林課長と森林組合が参加しているわけですね。この他の市町の担当課を見ると、どちらかという視線が観光振興、あるいは地域振興に向いているのかなと思うんですけれども、山北町は農林課が担当しているということはどのような目的で、このやまなみ五湖の連携に参加している目的というのでしょうか。どのようなお考えで農林課が担当されているのでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 それぞれの自治体の事情によって違うと思うんですが、決して、地域振興とか観光振興に、それをないがしろにしているということではなくて、たまたま山北町の場合は農林課、それから森林組合とか商工会とか観光協会等もメンバーに入っているということでございまして。入っていないから、山北町商工観光課がメンバーに入っていないから観光をやっていないといっても、もみじ祭りの主体は商工観光課です。そういうところもありますので、窓口は別にしても、もうちょっとそれぞれの自治体によって変わっているということでございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 イメージとして農林課が担当しているというのは、山北町は丹沢湖の周辺の観光に力を入れなくて、山づくりのほうに目が向いているのかなんていうふうに担当課を見たときに思ったんですけれども、この担当課も含めて、やまなみ五湖ネットワークについては考え直す必要があるのかなとは思いますが、これについてはこのくらいにしておきます。

観光地としては、この主要道路がどこもみんな行き止まりというのは非常に致命傷だと思うんですね。この点在しているこのやまなみ五湖の五つの観光地を点を線で結んで回遊できるような周遊性を持たせることが非常にこの観光地の価値を高めることにつながると思うんですけども、それについてはいかがでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 究極の目的はそういうことなんです。それぞれ、五つの湖がそれぞれ。主要地方道というような形で先ほどから申されてますけれども、これは町がつけているんじゃなくて県が主要地方道というものをつけた中で、それで町も町長中心に主要というふうになっているんだから早く整備して、やまなみ五湖を結びつけてくれよということは何回も前から言っていますけれども、なかなかこのやまなみ五湖の予算自体がハード面よりソフト面のほうが非常に多くて、いろんなイベントに特化したものであって、ハード面についてはお金が、それこそ莫大なお金がかかってしまいますので、これは県が主導なんです。県としてもソフト面を中心になっているということでございまして。ちょっと関係自治体が不満を持っているんですが、これは致し方ないということでございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 今まさに副町長お答えいただいたように、この県の事業の印象はどのように感じられているのかなと思ったんですけど、私と一緒にやはりソフト面に力を入れているのかなという印象が否めないんですけども、本当に水源地域の活性化を考えているのであるならば、このやまなみ五湖を周遊できるようにすることが、やまなみ五湖の観光地の魅力を高めることにつながると思うんですけども、過去にそのような計画があったように、ちょっと小耳にはさんだような気がするんですけど、いかがでしょう。

議 長 副町長。

副 町 長 道路で五つの湖をつなぐという計画はあったとしても、それが現実になのかといったときに、どうしても予算の関係で神奈川県の方では、上下流間の交流とかそういうものに進んでいってしまって、環境整備とかそういうもの、道路整備とかいうものには向かなかつたと、向いていなかった、い

ないということが実情でございます。

議長 石田照子議員。

13 番 石 田 県は、このやまなみ五湖の交流人口を2025年までに直近3か年の2%増に推移すると見込んでおります。人口とすれば、直近3か年の平均が848万人を、2025年には70万人増やして918万人にするという目標を掲げております。でも、このソフト面だけでは、この交流人口を増やすには、どうしても無理があるのではないかなと、どうしてもこのネットワークは欠かせないと思うんですけれども、当初の予定どおり、この周遊できる道路計画はしっかり県に推し進めるように要望すべきだと思うんですけれども、いかがでしょうか。

議長 企画政策課長。

企画政策課長 やまなみ五湖の関係でございますけれども、先ほども申しましたように、現在、県との意見交換会の中で道路の必要性ですとか、現状と課題ですとか、その辺りを整理しているところでございます。その中で石田議員から今回お話のございました、やまなみ五湖を周遊できる道路の関係、実は、先般相模原市に行ったときに、相模原市に行くのに東名高速で行きまして、あと圏央道を使っていきました。隣の町なのに何でこんな遠回りをしていかなきゃいけないんだというような印象も持ちまして、やはり隣の町であれば、すぐに行けるような道路というのはあってしかるべきものだというふうに考えておりますので、これから意見交換会の議論をまとめ上げていく中で、やまなみ五湖の関係ですとか、あるいはSKY圏の関係ですね、そういったものも踏まえながら、最終的にどこの道路を優先的に進めていくのかというのを決めたい中で、その辺りについては今後の要望活動につなげていきたいというふうに考えております。

議長 副町長。

副 町 長 山北町もいろんな事業をやっている手前ですね、会計検査というのが、よく新聞の紙上等をにぎわしている会計検査というものが、会計検査院から職員が派遣される。そのとき、山北町に来て、分からなければ地図を見て、相模原市に来なさいと、明日、相模原市に書類を持って来なさいと。相模原、地図で見るとすぐ隣なんですね、相模原市は山北の。ところが、我々が相模原に行くには、一回、松田に出て、246をずっと行って、そこから上がって



かなきゃいけないと。その辺のところが分かっていないので、国の職員ですら山北と相模原市はつながっているんじゃないかというようなことも思っている節があります。その辺で町長の指示によって、やはり地図を見たときに山北と相模原市は近いんだよという形の中で取り組んでいかなきゃいけないということで、今事業を進めている、進めようとしているところでございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 今の会計検査院のエピソード一つとっても、やはり地方の、都会に住んでいる方は地方のことはよくお分かりいただけていないなというような印象を受けますけれども、やはりこれは地方にいる私たちが声を上げ続けなければ、この現状は伝わらないと思うんですね。この主要地方道がしっかり主要道路として役割を果たすときには、神奈川県都市計画マスタープランにしっかり位置づけされなければいけないと思います。先ほども申し上げましたけれども、本年3月に改定されました神奈川都市計画マスタープランには、この県西の南北軸には一切触れていません。これを訴え続けなければ、声を上げ続けなければ、次回の改定のときにも同じ状態が続くと思います。ぜひ声が届くように、大きな声で県に向かって言い続けていただきたいと思っておりますけれども、ここはトップである町長の出番だと思いますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、私も都市計画道路の審議委員を今はもうあれしましたけど、2年ほど審議委員に選ばれて参加しておりました。すごい計画道路が20年ぐらい前から出ているやつがありますんで、神奈川県全ての市町村のところですから、もう莫大な量なんですね。それらが我々の審議でこのところを20年前にこういう計画があるけど、取り消していいか。だから、私が言ったのは南足柄さんと、それから小田原市の道路で、やはり全部20年前でした。そこの片方は取り下げるほう、片方は推進するほう、そういうのが審議に上がってくるわけです。そういうような実態でございますので、全てがそういうことじゃございませんけど、中には、そういったものが非常に多いということで、やはりあれだけのボリュームの道路を計画して、計画は、まず載せることも大事ですし、そして、それを要望して、予算をつけてもらっ

てというようなことをやるわけですけど、そういうような裏方を見ていますと、やはり何というんですか、そのときのやはり町長なら町長、そして副知事なら副知事、あるいは道路部長、そういったような人たちの関係ですね、そして最後は審議会で決をしてもらわないとつかないというようなシステムになっておりますので、そういったことを含めながら様々なところに、私もそういうところにも出てきましたんで、少しはそういう仕事に分かりますんで、そういったような手順をしっかりと踏んで進めてまいりたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 この問題は1年や2年で解決する問題ではなくて、やはり10年、20年のスパンで見ていく問題ですので、継続的にしっかり声を上げていくことが需要かなと思います。

また、このやまなみ五湖として見た場合には、観光として重要な道路でありますけれども、一番大きな問題は抜け道が1本もないということであります。町民の安心・安全を考えたときに、北へ抜ける南北道路は重要な意味を持つ道路になりますので、最後に町長の覚悟をお聞かせいただきたいと思っております。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、今回は、やまなみ五湖というような切り口で質問いただきましたけれども、実際に同じような中で丹沢湖の水源に関わるということで、企業団が主催でございますけど、山北町、横浜市、川崎市、それから横須賀市、そういったようなもちろん近隣のところも入っておりますけど、そういったところが実際に丹沢湖、要するに水源地域として、どのように水を使わせていただいている関係から協力できるかというのを5年ぐらい前かな、吉川副知事のときに発足して、ここ2年はちょっとコロナ禍でやっておりますけれども、そういった中で、やはり大勢の方の理解をいただかないとなかなか道路計画も、県だけというわけにもいきませんので、そういったような中で様々な関係している、水源に関係している自治体と一緒にあって、そして、これを前に進めていきたいというふうに思っておりますんで、ぜひとも皆様方の御協力もいただきながら前へ進めていきたいというふうに考え

ております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 前へ進めていきたいという回答をいただきましたけれども、この回答書の中でも、将来的に広域的な道路における議論をまとめ上げた段階で県へ要望してまいりますと回答がありますけれども、確認でございます。しっかりと強く県に要望していただけるということでよろしいのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 はい。私も、今たまたま県の町村会長というような立場を拝命しておりますので、そういったことから強く要望していきたいというふうを考えております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 強く要望したいという心強い回答いただいたところで、そろそろ終わりにしますけれども、昨日パラリンピックが13日間の戦いに幕を下ろしました。私たちに感動を与えてくれましたけれども、テレビを見ていて、どなたがおっしゃったか分からないんですけれども、ちょっと私の心に刺さった言葉がありますので、御披露させていただきますが、「できないことを見つけるのではなく、できることを見つけるんだ」と言われておりました。いつも家事をさぼる理由を見つけている私の心にぐさりと突き刺さったんですけれども、これは行政運営にも通じると思うんですね。費用がないから、人材が足りないから、国や県が動いてくれないからといって、できない理由を見つけるのではなくて、少ない予算で限られた人材で何ができるのか、国や県を動かすにはどうしたらいいのかという、できる理由をぜひ見つけていただきたいと思います。

これで終わりにいたします。